

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート
2021年1月8日

Food & Drug Chains Joining COVID19 Vaccine Effort

新年あけましておめでとうございます。

米国では新型コロナウイルス・ワクチンの接種が昨年12月からスタートしていますが、一方では感染者の数は増え続けております。

その中、一日も早く接種の普及を広め米国民が安心して暮らせるようにと食品小売業やドラッグストアチェーンらが率先して薬剤師やファーマシー・テクニシヤンの雇用を拡大しています。

ファーマシー・テクニシヤンとは薬剤師をサポートする調剤技師のことを指し、日本の3倍以上の処方箋数をこなす大手の民間薬局では、薬剤師1名に対して通常2~3名の調剤技師がサポートします。

米国疫病予防管理センターCDCは、最初のワクチン投与対象であるフェーズ1aの医療従事者及び高齢者施設の入居者及び施設で従事するスタッフに続き、フェーズ1bに約3,000万人のエッセンシャルワーカーと1,900万~2,100万人に及ぶ75歳以上の高齢者を対象に接種が進めます。

そのエッセンシャルワーカーには食品生産及び農業部門の労働者が含まれ、フェーズ1cでは食品を扱う接客業及び外食産業の従業員を含む予定であると12月20日に提案しました。

これらの医療従事者と高齢者にならんで食品関連関係者が続く優先順位の意味とは、米国の『社会的機能の維持達成』を支援する目的があるからであると述べています。

その背景には12月18日の時点の報告で、51,519人の食肉包装労働者、14,262人の食品加工労働者、11,405人の農業労働者を含むフードシステムの77,000人以上の労働者が新型コロナ陽性患者となり、少なくとも347人が亡くなっています。

パンデミック中、人々に不可欠な食を提供奉仕してきた労働者の数千人が、毎日のように感染、数百人が死亡していることは既に重篤な問題であり、一刻も早い解決が望まれています。

この発表と時を同じくして、全米で約2800店を運営する大手スーパーマーケットチェーンKroger傘下の薬局部門Kroger Healthでは、スーパーマーケットチェーン店内で展開している2200か所の薬局と220の診療所を通じてワクチン接種の準備を進めるために約1,000人の新しい医療従事者を雇用しました。

現在は急ピッチで新規雇用したチームメンバーのトレーニングを強化しています。

Kroger Health は連邦政府の予防接種イニシアチブ(接種を先導して行うグループ) の食品小売業者および薬局の1つで、昨年12月後半週よりアンカレッジ、アラスカ、及びその他の場所でファイザー&バイオテックが開発したワクチンの接種を医療従事者中心にスタートしています。

Kroger に続いて全米で5000店以上を展開するWalmartと30州で約2300店舗規模のAlbertsonsの薬局スタッフも、全国的なワクチン接種を展開する食品小売業者として予防接種イニシアチブに加わりました。

Albertsonsはワクチン接種を滞りなく普及させるため、新規に800人以上の薬剤師とファーマシー・テクニシャンを雇用しアラスカの医療従事者を手始めにワクチン接種を始めました。



またWalmartはニューメキシコ州内の特定された地区の医療従事者を対象にモデルナ社が開発したワクチンの投与をスタートしています。

フェーズ1cの順番が来る頃には、既に各チェーンで従事する薬剤師らが接種を行うので、そのスピードは迅速に進められると見られています。

また一般の人々が接種を行う段階になれば、10年程前からスーパーマーケットチェーンの薬局でも行われているインフルエンザ予防接種同様、買い物も兼ねて手軽に接種を行う事が出来ると予測されています。

米国の調剤市場は 30 兆円を超え、日本の約 5 倍の売上で、多くの薬剤師は顧客から信頼を得ており、評判の良い薬剤師がいる店舗に薬以外の商品も豊富にあれば調剤を待つ間に何か他の物を買求める顧客もいるので、結果的に店舗全体の売上に寄与します。

1 万店以上を経営するドラッグストアチェーン上位の Walgreen や CVS では、商品力や品数以上に各店の薬剤師の知識や対応がさらに向上すれば、おのずと顧客が来店する可能性があります。

Walmart はそれらを熟知しているからこそ、どんなに小型タイプの店舗を作っても調剤部門は外さないよう設計しています。

グロサリービジネスが調剤を店舗に持つコンビネーション型の形態を Food & Drug と呼び、20 年以上前から増加している理由は、調剤を持つドラッグストアチェーンが化粧品や雑貨以外のみならず食品にも販路を広げていった事に起因しています。





コンビニエンスストアが生まれた米国で、そのコンビニが集客に苦戦している背景に、コンビニの要素を持ち処方箋も併用するドラッグストアチェーンの進出が彼らのシェアを奪ったからであると言われています。

苦戦しているコンビニの状況と同じ状況を辿らないよう、多くのスーパーマーケットチェーンでは調剤薬局を併用した Food & Drug タイプの店舗数を増やしています。

その対策が別の意味で功を奏する予定です。



私が日本に滞在するときは、ほぼ毎日のようにコンビニに行きます。特に買いたいものが無い時でも時間潰しを兼ね、とりあえず目につけば立ち寄って知らず知らずのうちに飲み物やおやつを購入しています。

それは日本のコンビニの商品が常に革新性に溢れ、各チェーンの独自性を持ちながら魅力のある商品を提供し続けているからだと思います。

ちなみにアメリカでは、仕事で行く以外はガソリン補給で寄る程度で、その際に気が向いたら飲み物やガムを買う頻度です。したがって年間に数える程しか立ち寄りません。

そしてどのチェーンに行っても、サービスや置かれている商品に対してさほど特別な違いを感じません。

もちろん米国のコンビニエンスストアの全てが同じという訳では無く、中西部を中心に 730 店展開している QT(Quick Trip)や東部で 900 店を持つ Wawa などは顧客満足度も高いですが、彼らの差別化は日本のコンビニエンスストアを彷彿

させるインスタで作られる出来立てのデリやカスタマーサービスを逆に持ち込んでいるからです。



コンビニについては、別の機会に掘り下げてレポートしていきますね。一日たりとも新聞やメディアで顔を見ない日は無いファウチ博士が、感染を終息させるには米国民の90%がワクチン接種しないと目標は達成できないかもしれないと発表しています。

その発表の直後に本人を始めとして、高齢な官僚の人々や俳優が、接種をメディアで公開し、その効果、接種に戸惑う国民の意識を変えようとしています。

直近の調査で85%の国民がワクチン接種をするというデータとなっています。

近所のドラッグストアやスーパーマーケットチェーンでワクチン接種が行われるようになれば、「2回目のワクチン接種行くなら、ついでにWalmartでコロナビールを1ケース買えば、2ケース目が50%オフになるので、忘れずに買って来てね。あっ、ついでにライムも宜しく！」という会話も当たり前になるのかもしれない。

2021年も引き続き宜しくお願い致します。